

「第64回 小平南西部地域コミュニティ交通をみんなで考える会」の報告

- 開催日時：令和4年7月13日（水）14時～15時40分
- 出席人数：会場8人（欠席10人） 傍聴：3人

1 「(仮称)小平市の地域公共交通の基本方針」策定の基本方針について

公共交通課から資料1-①、1-②、資料2に基づき説明

質疑

- ・資料1-①の「4 基本方針の策定体制等（2）市民参加及び意見・要望等の収集」の中で、コミュニティタクシーを考える会等を通じてとあるが、市全体に係る基本方針を検討していくのであれば、考える会等の構成自治会だけでは範囲が狭いのではないか。意見を大きく吸い上げる工夫が必要ではないか。
- ・基本方針の策定と、「南西部地域コミュニティ交通をみんなで考える会」とは、どのような関わり合いがあるのか。
→（公共交通課）基本方針の検討に当たっては、「南西部地域コミュニティ交通をみんなで考える会」だけではなく、「にじバス協議会」や「コミュニティタクシーを考える会」に情報提供、情報共有しながら、市民・地域の意見として吸上げ、会が出た意見については、庁内の検討委員会に報告し、反映しながら検討を重ねていく。
基本方針は市全体に関わることなので、南西部地域の検討状況も取り入れていく。南西部地域の動きとすり合わせを行い、基本方針と同じ方向に沿うように調整していきたい。
- ・資料2の「4 実施時期」で、アンケート調査は令和4年9月から12月とあるが、南西部地域では、現在、デマンド交通について検討しているので、デマンド交通に関する具体的なアンケートであれば自治会員へ依頼しやすい。しかし、市全体に関わるアンケートについては、南西部地域の内容と重複するので混乱しやすく、自治会員には依頼しづらい状況である。

2 南西部地域の特性に即した新たな交通手段の研究

(1) 前回の振り返りと確認

- ・運行区域は、上水本町周辺と、鷹の台駅西側地域の2つとする。
- ・運行車両は、1運行区域1台とする。
- ・運行方法は、運行ルートの設定はしない。
- ・事前登録は、必要とする。
- ・予約は、必要で前日までとする。
- ・運行曜日は、月～金曜日とする。
- ・配車システムは、実証実験運行中は利用しないで、予約は電話やメールなどで受ける。
本運行に移行した場合はシステムの導入を検討する。

質疑

- ・(運行方法や予約方法等) 他市のデマンド交通の成功例を参考にしているかどうか。
 - (小平交通) 他自治体で成功しているデマンド交通の事例は、1日の利用が少ない地域だから対応できているのではないか。市内のどのタクシー事業者でも同じだが、雨が降ると予約が一杯で取れなくなる。そのため、時間帯によっては、一般のタクシーとデマンドタクシー両方の予約を受けるのは難しい状況が想定できる。
 - ・埼玉県鳩山町は山間部の町だが、デマンドタクシーを町内200円の運賃で運行し、成功している。
川越市もデマンドタクシーを実施しているので、参考にしてみてもどうか。
 - ・山間部など人口が少ない地域は、住民の移動手段の確保が重要と考え、予算をかける比重が高いのではないか。
 - (小平交通) 予算が充分であれば対応できるのでは。東久留米市はデマンド交通の実証実験運行を実施するに当たり、5年間分の予算を確保していると聞いている。
 - (公共交通課) 東松山市や志木市のデマンド交通について情報収集をしたところ、タクシー料金から利用者負担分を差引いた額を、市が補助しているので、乗れば乗るほど赤字になり、市の補助金額も増額になる。そのため、対象者を高齢者等の交通弱者に絞り、制限しているとのこと。
- 他の自治体では、財政支援をしている公共交通はデマンドタクシーだけの所もあり、集中して予算計上できるが、小平市はコミュニティバスやコミュニティタクシー3ルートがある。また、南西部地域においては、他の3地域とのバランスを考慮するとともに、市全体の予算の枠組みの中での調整が必要となる。

(2) 今回の検討内容

資料3の他市で実績のある方式をミックスした④案をベースに引き続き検討し、新たな⑤案として運行パターンを考えていく。

協議

乗降場所について

- ・前回、乗降場所に自宅を含める、含めないと両方の意見が出たが、含めた場合は1つの予約に対する運行時間が長くなり、その分予約回数が減り運行経費が上がるなどの不都合も生じる。
- ・乗降場所に自宅を含めると困る人がいるので、自宅は含めなくて乗降場所を設定することにするのはどうか。
 - (公共交通課) 乗降場所については、一覧表を作成して、登録者に分かるようにする。
自宅に1番近い乗降場所で乗車して、目的地に1番近い乗降場所で降りることになる。
- ・乗降場所は、コミュニティタクシーの実証実験運行で乗降が多かった停留所を入れ、それ以外は、考える会のメンバーで乗降場所の候補地は挙げられるのでは。乗降場所の候補地が分からない地域については、その地域の自治会の方に聞いてみるのはどうか。
また、地域の方の口コミから設定してはどうか。

- ・デマンド交通は車両制限令の制限を受けるのか。
 - （公共交通課）デマンド交通は、定時定路線では無く区域運行であり、停留所を設けないので、道路幅員等の制限は受けない。
 - （小平交通） 停留所は設置しなくても乗降場所については、乗客が待つ際に安全な場所に設定する必要がある。

運行時間について

- ・コミュニティタクシーは昼の時間の利用が少ないので、これを参考にして午前と午後の部に分けたらどうか。9時から12時までと、13時から18時までとに分けてはどうか。
- ・利用するケースを考えながら、シュミレーションして検討する必要がある。
- ・9時までは、居住者専用道路があり、タクシーでも通行できないエリアがある。
 - （公共交通課）運行時間の中抜けについては、乗務員の勤務体制にも影響するため、運行事業者にも確認する。
 - なお、予約は30分ごとに区切って受けることが想定されるが、予約が一杯の時は、利用者と運行事業者との調整の中で、前後の時間に移っていただくことがあるかもしれない。
- ・予約をする時点で、乗車時間と乗降場所が決まっていけないのか。
 - （公共交通課）予約の際は、乗車日時、乗車場所、降車場所を伝える必要がある。
- ・予約をキャンセルする際のルールも作る必要があるのでは。
 - （公共交通課）運行事業者と調整しながら検討していく。

運賃について

- ・利用者が1人でも2人の場合でも、運賃は単一運賃にする。
 - （公共交通課）他市の事例では、タクシーのメーター料金をベースに段階的に運賃を設定している状況もある。
- ・運行区域を越える場合について、検討する必要があるのでは。
- ・鷹の台駅西側地域から上水本町地域へ行きたい場合はどうか。
- ・1台の車両で効率的に運行するために運行エリアを設定したため、運行区域は越えないこととする。
- ・運行区域内は、シンプルで分かりやすい単一運賃してはどうか。

対象者について

- ・利用登録者の上限を設けるか。
- ・登録者数を絞るために、モデル地域を設定し、その中から募集をしてはどうか。
- ・公共交通という点では、対象者は誰でもいいのでは。
- ・登録者には、アンケート調査をして、どこからどこまで利用するのか、利用頻度などを把握するとともに、デマンド交通の仕組みについて理解してもらい、広めてはどうか。

その他

- ・考える会の中で、少人数の作業部会を設け、事前に公共交通課や運行事業者と調整しながら、運行システムのたたき台を検討していくのはどうか。
→可能な範囲で協力できる方と作業部会を設ける。

2 その他

(1) 市からの情報提供

- ・「バスとタクシーのひろば in 小平2022」来場者アンケート集計報告について

(2) 参加団体からの情報提供

- ・黎明会から、10～11月に「死生学」について、市民公開講座を開催予定。
日程が決まったらお知らせする。

《今後の予定》

第65回 令和4年9月14日(水) 14時から開催 ※場所 小川公民館 講座室

今回は、

- ・運行パターン④をベースに、運賃設定や乗降場所の候補地などについて、検討する。
- ・乗降場所については、運行地域に分けて、具体的な候補地を挙げて、地図に落とし込む作業をする。なお、上水本町周辺については、個別に該当自治会と調整する。